

福岡県米・麦・大豆生産改善速報第1号

令和3年4月16日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

麦類の生育概況と成熟期予測

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	3月19日～4月9日(22日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	14.7	20.8	9.1	161	68
前年差(比)	+1.4	+1.9	+1.0	102%	63%
平年差(比)	+3.3	+4.5	+2.4	145%	77%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦類の生育と今後の予測 [小麦：(農産部) 11月18日播種、(筑後分場) 11月19日播種、大麦：11月25日播種]

3月19日～4月9日の平均気温は平年に比べて3.3℃高く、日照時間は45%多く、降水量は23%少なかった。

出穂期は、平年に比べて小麦で10～13日、大麦で6～8日早かった。穂数は、小麦においてシロガネコムギで8%少ないが、チクゴイズミおよびラー麦は平年並～7%多くなり、大麦では平年並であった。4月10日以降の気温が平年並で経過した場合、成熟期は小麦で7～9日程度早く、大麦で5日程度早くなると予測される。

3. 今後の対策

(1) 穂揃期追肥

「ラー麦(ちくしW2号)」、「ミナミノカオリ」において、穂揃期追肥を実施していない場合は速やかに施用する。なお、生育が旺盛な場合は、タンパク質含有率を高めるために穂揃期追肥の窒素を1kg/10a程度増肥する。

(2) 赤かび病防除

赤かび病に弱い品種や、降雨や曇天が続き多発生が予想される場合は、1回目防除の7～10日後にもう一度防除を行う。

(3) 排水対策

今後の降雨が麦類の収量、品質に及ぼす影響は大きく、排水対策の徹底が重要である。降雨後、速やかに地表水の排水を図るため、排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備する。

(4) 適期収穫

収穫期(成熟期2～4日後)が平年に比べて早くなることが予想されるため、共乾施設の運営委員会等を早めに開催し、荷受計画を作成する。

早刈りは、損傷粒の増加や品質低下を生じやすく、特にビール大麦では発芽率の低下や剥皮の発生が多くなる場合があるので、穀粒水分が25%以下になってから速やかに収穫を行う。

4. 農林業総合試験場における調査成績

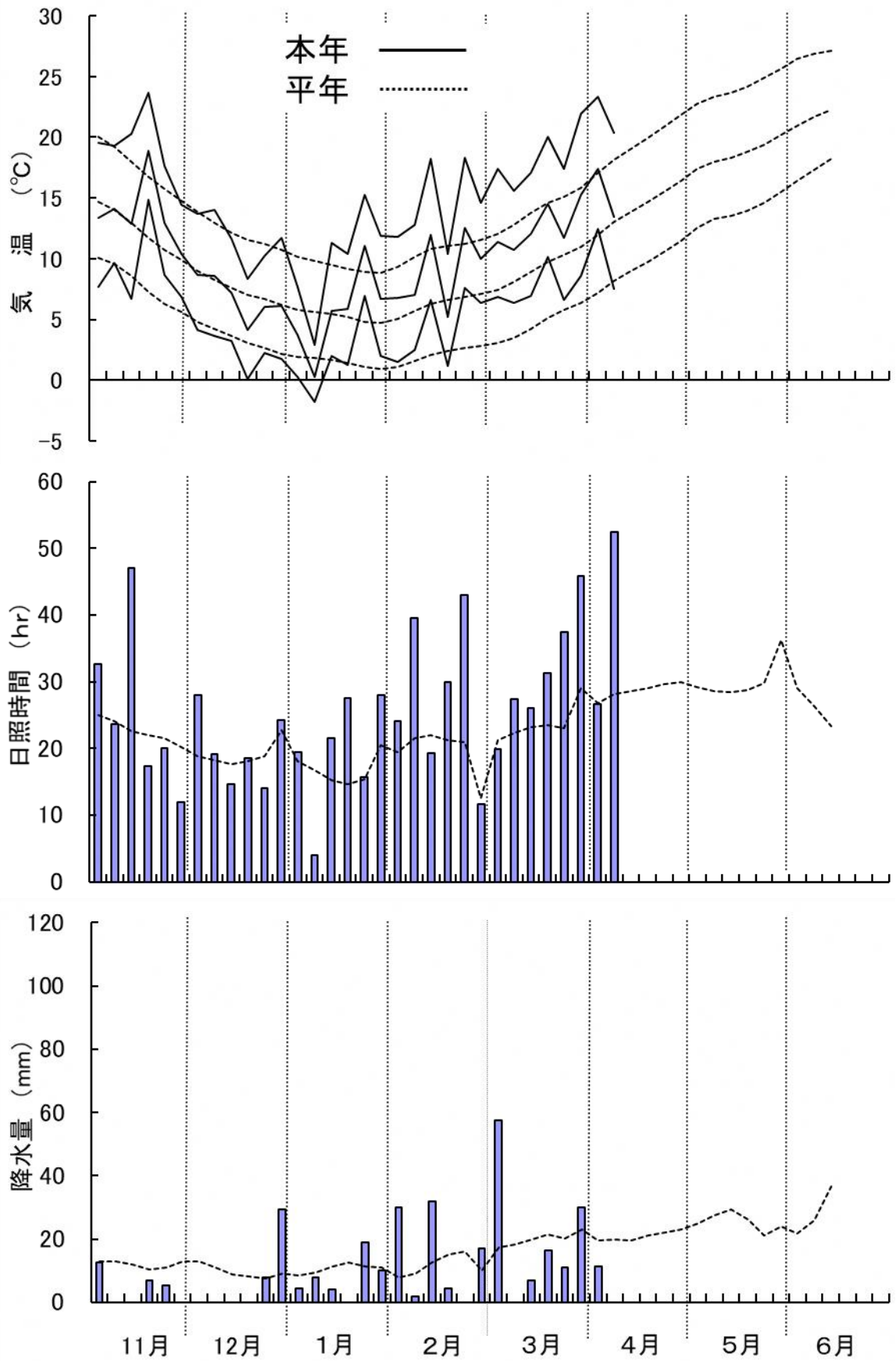
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出穂期 月/日	開花期 月/日	予想成熟期 月/日	穂数 本/m ²
農産部	11.18	チコイヅミ	本年	3/27	4/6	5/21	495
			前年比(差)	+3	-2	-4	99 %
			平年比(差)	-11	-12	-8	101 %
	11.25	ほうしゅん	本年	3/30	—	5/13	488
			前年比(差)	+2	—	-2	84 %
			平年比(差)	-8	—	-5	100 %
筑後分場	11.19	シカネムギ	本年	3/26	4/3	5/17	493
			前年比(差)	+1	-4	-4	85 %
			平年比(差)	-10	-12	-8	92 %
	11.25	はるしづく	本年	3/26	—	5/11	552
			前年比(差)	+4	—	+1	108 %
			平年比(差)	-6	—	-5	96 %
11.19	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	3/22	4/1	5/17	457	
		前年比(差)	-1	-1	-5	91 %	
		平年比(差)	-13	-12	-9	107 %	

注1) 平年値はH22～R1年播の平均値。

2) 予想成熟期は4月10日以降の気温が平年並で推移した場合の予測値で、今後の平均気温が1℃上下すると成熟期は±1～2日変動する。予測法は福岡県麦栽培技術指針を参照。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。

4) 穂数は、農産部で全穂数、筑後分場で有効穂数の値を示す。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：令和2年11月～令和3年4月)